

経済・金融 フラッシュ

景気ウォッチャー調査 13年11月 ～現状判断DI、先行き判断DIともに上昇するなど 好調が続く

経済研究部 研究員 押久保 直也

TEL:03-3512-1838 E-mail: oshikubo@nli-research.co.jp

景気ウォッチャー指数

	景気ウォッチャー調査 現状判断DI					景気ウォッチャー調査 先行き判断DI				
	原数値	(季節調整値)	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連	原数値	(季節調整値)	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連
12年11月	40.0	44.0	39.2	40.6	44.5	41.9	46.7	42.0	41.9	41.2
12月	45.8	47.7	45.5	45.6	48.5	51.0	54.3	50.2	52.8	52.8
13年1月	49.5	52.4	48.3	50.2	55.3	56.5	56.7	55.4	58.6	58.9
2月	53.2	53.3	51.7	55.0	58.6	57.7	56.7	57.0	59.1	59.3
3月	57.3	52.9	56.9	56.1	63.1	57.5	54.6	57.0	57.3	60.9
4月	56.5	52.5	55.5	56.7	62.3	57.8	53.3	56.8	58.8	61.8
5月	55.7	53.7	54.4	57.1	61.7	56.2	52.8	55.0	57.6	61.0
6月	53.0	51.7	52.2	52.8	58.0	53.6	51.5	52.6	54.8	57.5
7月	52.3	50.6	50.6	54.5	58.1	53.6	53.0	52.0	56.1	58.6
8月	51.2	50.9	49.3	53.3	58.7	51.2	52.5	49.6	53.4	57.0
9月	52.8	54.3	50.6	55.9	60.3	54.2	56.2	52.9	55.2	60.2
10月	51.8	55.0	49.2	54.8	61.6	54.5	57.8	53.7	54.6	59.4
11月	53.5	57.5	51.3	56.3	61.3	54.8	59.7	53.8	55.5	59.7

(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

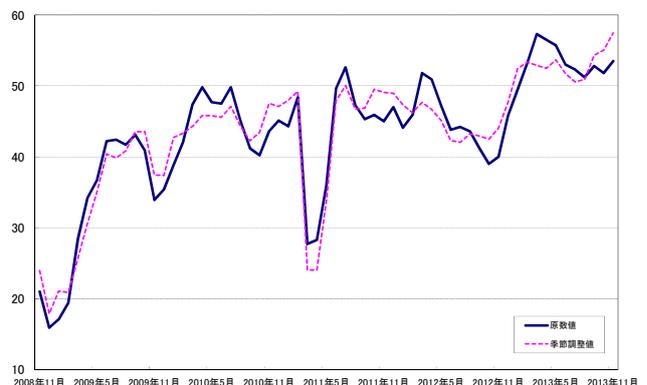
(注) 「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種（小売関連、飲食関連、サービス関連など）の景気判断、企業動向関連業種（製造業、非製造業など）の景気判断、雇用関連業種（人材派遣業、職業安定所など）の景気判断を示す。

1. 景気現状判断DI 動向：2ヶ月ぶりの上昇

12月9日に内閣府から発表された2013年11月の景気ウォッチャー調査によると、景気現状判断DIは53.5となり、前月を1.7ポイント上回り2ヶ月ぶりに上昇した。7月調査から参考系列として公表されている現状判断DI（季節調整値）は57.5となり、前月を2.5ポイント上回り4ヶ月連続で上昇している。

項目別に見てみると、家計動向関連は、51.3ポイントと前月を2.1ポイント上回った。その主な要因としては、①高額品、自動車、家電を中心に消費税増税前の駆け込み需要がみられること、②新型車効果から自動車販売が好調だったこと、の2点が挙げられる。

景気現状判断DIの動向

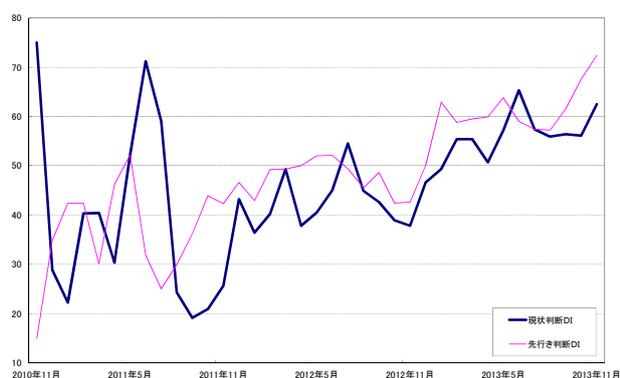


(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

①に関する具体的なコメントとしては、「消費税増税前の駆け込み需要により、単価の高い商品の購買意欲が高まり、販売量も増えている。」(近畿＝家電量販店)や「消費税増税に伴う駆け込み需要など、購買意欲が上向きである。」(北関東＝乗用車販売店)などがあり、家電量販店のDIは62.5ポイントと前月を6.4ポイント上回り、乗用車・自動車備品販売店のDIは62.6ポイントと前月を5.3ポイント上回った。②に関する具体的なコメントとしては、「新型車の販売が好調を維持している。」(北関東＝乗用車販売店)などがあった。

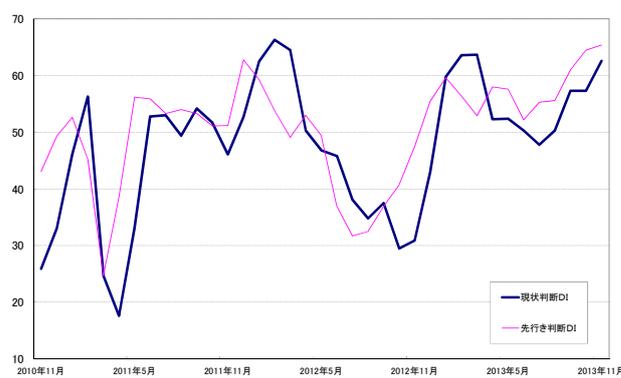
一方、「消費税増税前の経過措置が基準日を過ぎ、展示場への来場やイベントなどの集客が低迷している。」(中国＝住宅販売会社)など、消費税増税前の駆け込み需要の一服感が住宅販売にみられたことで、住宅関連のDIは45.5ポイントと前月を8.5ポイント下回った。

家電量販店



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

乗用車・自動車備品販売店



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

企業動向関連は、56.3ポイントと前月を1.5ポイント上回った。これは「上半期決算報告では好調な企業が多いようである。政府の賃上げ方針にも同調する流れにあり、方向としては上向きである。」(東海＝化学工業)など、製造業で好業績企業が多かった影響と思われる。

雇用関連は、61.3ポイントと前月を0.3ポイント下回った。これは「求職者数の減少に伴い、有効求人倍率の改善傾向は続いているが、求人数の伸びには一服感がみられる。」(九州＝職業安定所)など、一部で求人増勢に一服感がみられたことが影響しているとみられる。

また、地域別に見てみると、景気の現状判断DIは全国11地域中8地域で対前月比上昇し、3地域で対前月比低下した。最も低下したのは沖縄(4.3ポイント低下)、最も上昇したのは東海(3.6ポイント上昇)であった。東海は、消費税増税前の駆け込み需要からウェイトが大きい自動車関連産業が好調だったことが影響していると思われる。

2. 景気の先行き判断 DI 動向：3ヶ月連続の上昇

景気の先行き判断 DI は 54.8 となり、前月を 0.3 ポイント上回り 3 ヶ月連続で上昇した。また、季節調整値の先行き判断 DI は 59.7 となり、前月を 1.9 ポイント上回り 3 ヶ月連続で上昇した。

項目別に見てみると、家計動向関連は、53.8 と前月を 0.1 ポイント上回った。これは「消費税増税に備えた駆け込み需要により、耐久消費財の動きが活発になることと年末商戦が重なることで 3 月末までの需要は確実に増える。」

(南関東=家電量販店) など、消費税増税前の駆け込み需要や年末年始の売上が期待されて

いる影響とみられる。一方で、「消費税増税に向けて、日常生活で消費するものについては節約志向が強くなることが予想される。」(南関東=コンビニ) など消費税増税によるマインド低下懸念が引き続きみられた。

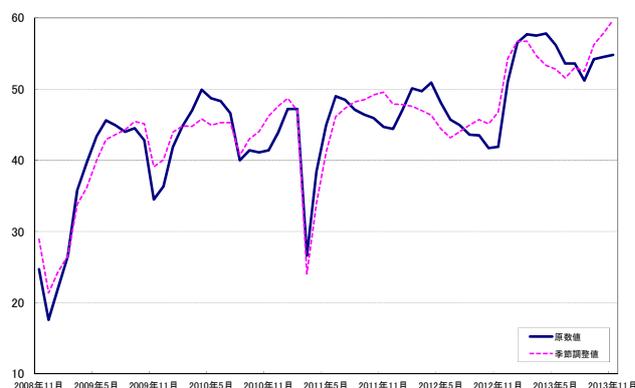
企業動向関連は、55.5 ポイントと前月を 0.9 ポイント上回った。これは「現在抱えている受注残が今までにないほど増えており、さらに年度末の駆け込み需要も見込めるため、忙しいはずである。」(南関東=電気機械器具製造業) や「12 月はイベント(クリスマス、年末商戦)などで、今よりも景気は良くなる。ボーナスも前年比では増加予定であるため、期待はできる。」(近畿=食品製造業) などから、消費税増税前の駆け込み需要や年末商戦が期待されている影響と考えられる。

雇用関連は、59.7 ポイントと前月を 0.3 ポイント上回った。これは消費税増税前の駆け込み需要やアベノミクス効果から雇用環境がいつそう改善することが期待されている影響と思われる。

また、地域別に見てみると、景気の先行き判断 DI は全国 11 地域中 9 地域で対前月比上昇し、2 地域で対前月比低下した。最も低下幅の大きかったのは南関東(1.4 ポイント低下)、最も上昇幅が大きかったのは四国(2.4 ポイント上昇)であった。

2013 年 11 月の調査では現状判断 DI、先行き判断 DI 共に上昇しており、引き続き高い水準で推移している。耐久財を中心とした消費税増税前の駆け込み需要や年末年始の売上が強く期待されているなど、景況感の改善基調が強まっている。

景気の先行き判断 DI の動向



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」